

平成18年第3回景況調査結果について

2006年10月3日
三重県農水商工部
(財)三重県産業支援センター

調査要領

1. 調査時点：2006年8月(下旬)
2. 調査対象：県内全域の企業1,000社
3. 調査方法：FAX及びインターネットによるアンケート調査
4. 回答状況：311社(有効回答率 31.1%)
5. 調査企業の産業、従業員数、地域別(生活創造圏別)内訳

【産業別】

【従業員規模別】

	建設業	製造業	運輸・ 通信業	卸・ 小売業	金融・ 保険業	サービ ス業	合計	~29人	30~ 99人	100 人~	合計
対象企業数	87	286	64	270	23	270	1,000	518	223	259	1,000
回答企業数	32	94	27	70	14	74	311	125	73	113	311
構成比(%)	10.3	30.2	8.7	22.5	4.5	23.8	100.0	40.2	23.5	36.3	100.0

【生活創造圏別】

	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	伊賀	尾鷲	熊野	合計
対象企業数	111	222	118	156	121	126	89	30	27	1,000
回答企業数	31	87	29	42	42	33	26	13	8	311
構成比(%)	10.0	28.0	9.3	13.5	13.5	10.6	8.4	4.2	2.6	100.0

(注) 構成比等(%)については、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

- (注) 桑名・員弁生活創造圏(桑名市・いなべ市・木曾岬町・東員町)
 四日市生活創造圏(四日市市・菰野町・朝日町・川越町)
 鈴鹿・亀山生活創造圏(鈴鹿市・亀山市)
 津・久居生活創造圏(津市)
 松阪・紀勢生活創造圏(松阪市・多気町・明和町・大台町・大紀町)
 伊勢志摩生活創造圏(伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・南伊勢町・度会町)
 伊賀生活創造圏(伊賀市・名張市)
 尾鷲生活創造圏(尾鷲市・紀北町)
 熊野生活創造圏(熊野市・御浜町・紀宝町)

平成18年10月3日現在

II 概要 (主な調査項目のD I 値の推移)

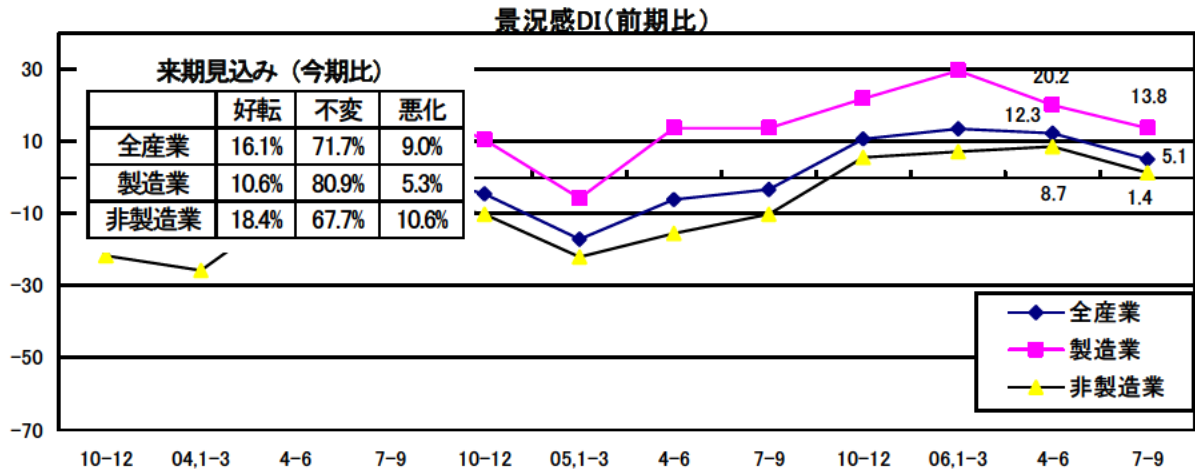
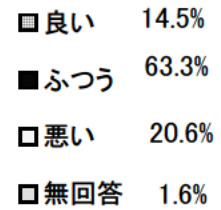
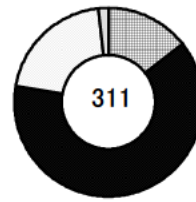
(1) 景況感

今期の県内景気は「良い」14.5%、「ふつう」63.3%、「悪い」20.6%となっております。

景況感D I (前期比) は全産業でプラス5.1ポイントと前回より7.2ポイント悪化しました。

また、来期の見込み (今期比) は、全産業、製造業非製造業で「好転」が「悪化」を上回っております。

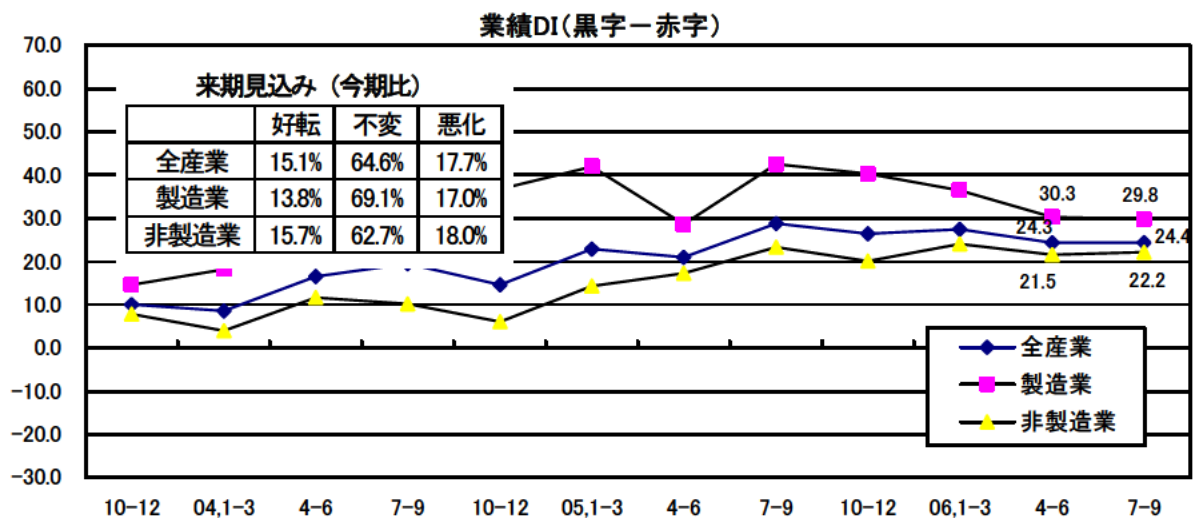
今期の景況感



景況感D I = 前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値

(2) 業績

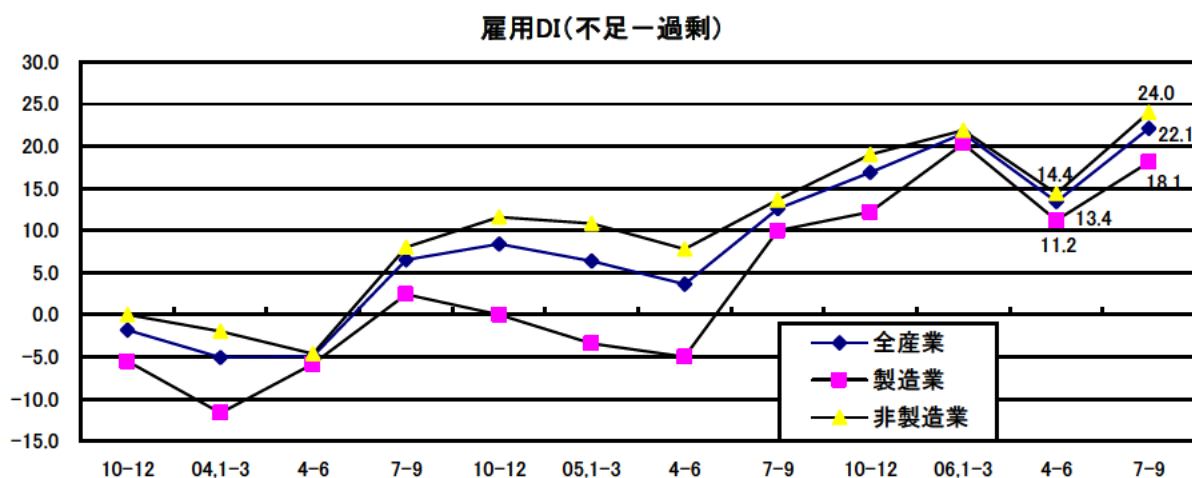
今期の業績D I (利益状況) は全産業でプラス24.4ポイントと前回より0.1ポイント改善し、「黒字」とする企業の割合が「赤字」とする企業の割合を2003年1-3月の調査から引き続き上回っております。一方、来期の見込み (今期比) は、全産業で「悪化」が「好転」を2.6ポイント上回っています。



業績D I = 今期の水準について「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値

(3) 雇用

雇用DIは全産業でプラス22.1ポイントと前回より8.7ポイント改善し、雇用状態が「不足」とする企業の割合が「過剰」とする企業の割合を9期連続で上回っております。



雇用DI = 今期の水準について「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値

(4) 要約

今期の県内企業の景況は、原油高の影響が大きく、業績に何らかの影響があったと答えた企業の割合は82.9%に及びました。景況感DIは2期連続の悪化。業績DIは横ばいとなっております。しかしながら売上高・設備投資は引き続き好調、雇用DIは全業種で強い不足感を感じており、今後の業況の拡大を感じさせるものとなっております。

(5) 産業別

全産業 (回答311社)

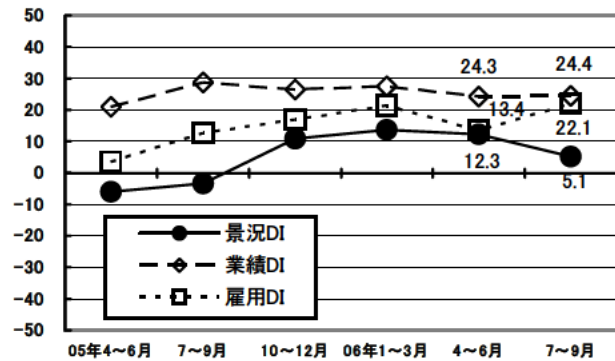
景況感は減少するもプラスを維持。業績は横ばい。雇用は不足感が強まる。

景況感DI (前期比) は、全産業でプラス 5.1 ポイントとなり、前回より 7.2 ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス 24.4 ポイントとなり、前回より 0.1 ポイント改善しました。

雇用DIはプラス 22.1 ポイントとなり、前回より 8.7 ポイント改善しました。

全産業の主要DI 推移



建設業 (回答32社)

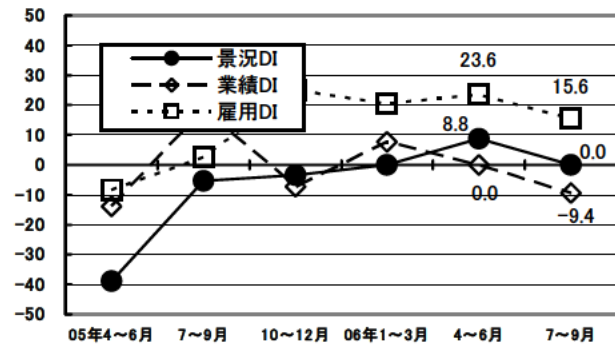
景況感、業績悪化。雇用は不足状態が続く。

景況感DI (前期比) は、建設業で 0.0 ポイントとなり、前回より 8.8 ポイント悪化しました。

また、業績DIはマイナス 9.4 ポイントとなり、前回より 9.4 ポイント悪化しました。

雇用DIはプラス 15.6 ポイントとなり、前回より 8.0 ポイント悪化しました。

建設業の主要DI 推移



製造業 (回答94社)

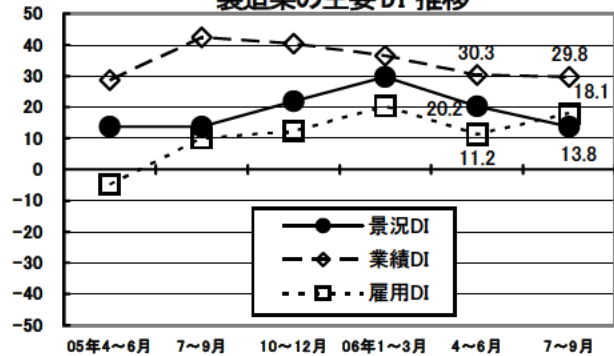
景況感悪化、業績横ばい。雇用は改善が続く。

景況感DI (前期比) は、製造業でプラス 13.8 ポイントとなり、前回より 6.4 ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス 29.8 ポイントとなり、前回より 0.5 ポイント悪化しました。

雇用DIはプラス 18.1 ポイントとなり、前回より 6.9 ポイント改善しました。

製造業の主要DI 推移



運輸・通信業 (回答27社)

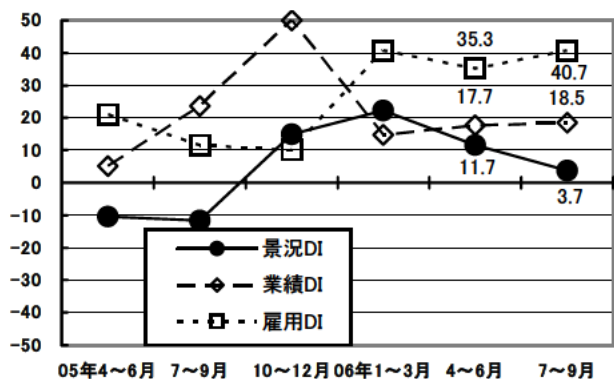
景況感は悪化が続く。業績は改善を維持。雇用は改善。

景況感DI (前期比) は、運輸・通信業でプラス 3.7 ポイントとなり、前回より 8.0 ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス 18.5 ポイントとなり、前回より 0.8 ポイント改善しました。

雇用DIはプラス 40.7 ポイントとなり、前回より 5.4 ポイント改善しました。

運輸・通信業の主要DI 推移



卸・小売業 (回答70社)

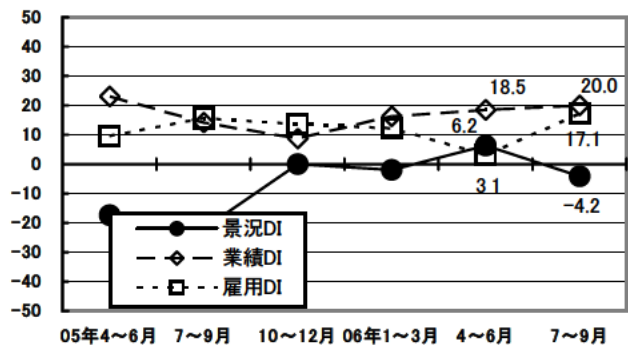
景況感は悪化しマイナスへ。業績は改善。
雇用は改善が続く。

景況感DI (前期比) は、卸・小売業でマイナス4.2ポイントとなり、前回より10.4ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス20.0ポイントとなり、前回より1.5ポイント改善しました。

雇用DIはプラス17.1ポイントとなり、前回より14.0ポイント改善しました。

卸・小売業の主要DI 推移



金融・保険業 (回答14社)

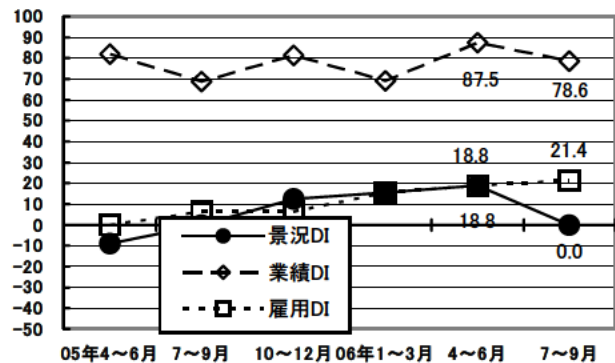
景況感は悪化。業績は好調を維持。
雇用は改善。

景況感DI (前期比) は、金融・保険業で0.0ポイントとなり、前回より18.8ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス78.6ポイントとなり、前回より8.9ポイント悪化しました。

雇用DIはプラス21.4ポイントとなり、前回より2.6ポイント改善しました。

金融・保険業の主要DI 推移



サービス業 (回答74社)

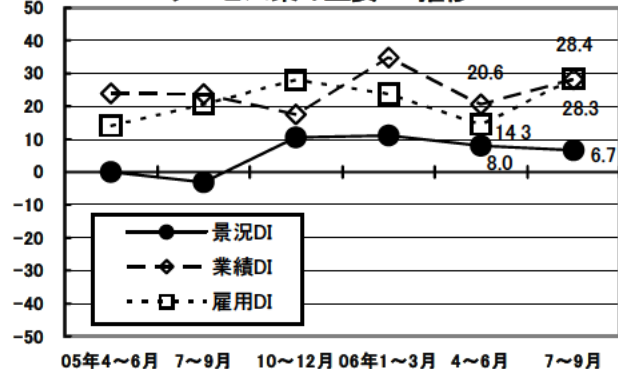
景況感は僅かに悪化。
業績、雇用は改善。

景況感DI (前期比) は、サービス業でプラス6.7ポイントとなり、前回より1.3ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス28.3ポイントとなり、前回より7.7ポイント改善しました。

雇用DIはプラス28.4ポイントとなり、前回より14.1ポイント改善しました。

サービス業の主要DI 推移



景況感DI = 前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値
 業績DI = 今期の水準について「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値
 雇用DI = 今期の水準について「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値
 ※ 前期=2006年4~6月 今期=2006年7~9月 来期=2006年10~12月

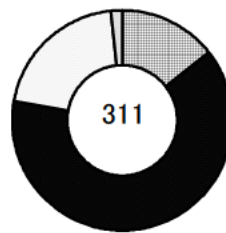
III 生活創造圏別の主要DI

	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	伊賀	尾鷲	熊野	全体
今期景況感DI	3.2	17.2	10.3	9.5	0.0	3.0	-7.7	-23.1	-37.5	5.1
前期	17.3	19.5	34.5	7.7	12.9	15.2	0.0	-20.0	-54.5	12.3
今期業績DI	32.3	29.9	44.8	38.1	30.9	9.1	7.7	-38.5	-25.0	24.4
前期	34.5	23.1	38.0	20.6	51.6	3.0	20.0	40.0	-36.4	24.3
今期雇用DI	22.6	26.5	41.4	23.8	23.8	27.3	-7.7	-7.7	12.5	22.1
前期	13.8	14.7	13.8	12.8	16.1	24.2	5.0	10.0	-18.2	13.4

IV全調査項目の結果詳細

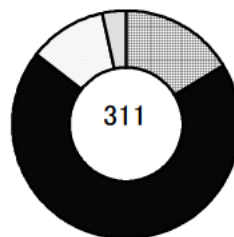
1. 景気

(1) 今期の県内景気については、「良い」14.5%(45社)、「ふつう」63.3%(197社)、「悪い」20.6%(64社)となっています。



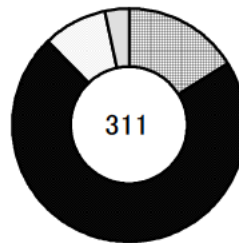
□ 良い	14.5%
■ ふつう	63.3%
□ 悪い	20.6%
□ 無回答	1.6%

(2) 前期と比べた今期の県内景気については、「好転」16.4%(51社)、「不変」69.1%(215社)、「悪化」11.3%(35社)となっています。



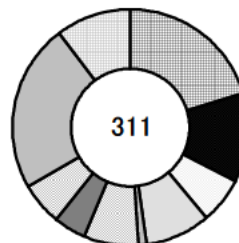
□ 好転	16.4%
■ 不変	69.1%
□ 悪化	11.3%
□ 無回答	3.2%

(3) 今期と比べた来期の県内景気については、「好転」16.1%(50社)、「不変」71.7%(223社)、「悪化」9.0%(28社)となっています。



□ 好転	16.1%
■ 不変	71.7%
□ 悪化	9.0%
□ 無回答	3.2%

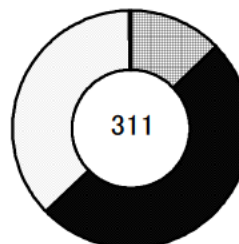
(4) 国内景気の回復時期については、「2007年7月以降」が23.2%(72社)でもっとも多く、次いで「2005年9月以前」が20.3%(63社)、「2005年10～12月」が12.2%(38社)の順となっています。



■ 2005年9月以前	20.3%
■ 2005年10～12月	12.2%
□ 2006年1～3月	6.4%
□ 2006年4～6月	9.0%
□ 2006年7～9月	1.0%
□ 2006年10～12月	7.4%
■ 2007年1～3月	4.5%
□ 2007年4～6月	5.8%
□ 2007年7月以降	23.2%
□ 無回答	10.3%

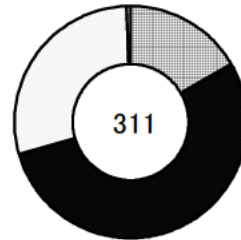
2. 業況

(1) 今期の業況については、「良い」12.9%(40社)、「ふつう」49.8%(155社)、「悪い」37.0%(115社)となっています。



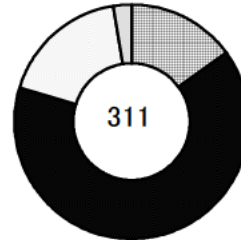
□ 良い	12.9%
■ ふつう	49.8%
□ 悪い	37.0%
□ 無回答	0.3%

(2) 前期と比べた今期の業況については、「好転」16.7% (52社)、「不変」53.7% (167社)、「悪化」28.9% (90社) となっています。



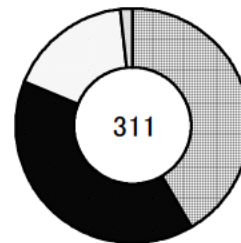
□好転	16.7%
■不変	53.7%
□悪化	28.9%
□無回答	0.6%

(3) 今期と比べた来期の業況見込みについては、「好転」15.1% (47社)、「不変」64.6% (201社)、「悪化」17.7% (55社) となっています。



□好転	15.1%
■不変	64.6%
□悪化	17.7%
□無回答	2.6%

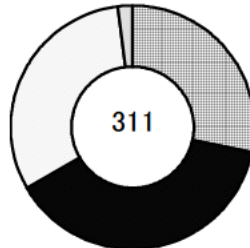
(4) 今期の利益状況については、「黒字」41.8% (130社)、「収支均衡」39.2% (122社)、「赤字」17.4% (54社) となっています。



□黒字	41.8%
■収支均衡	39.2%
□赤字	17.4%
□無回答	1.6%

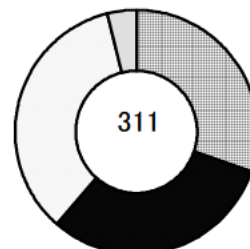
3. 売上高

(1) 売上高の前期比較については、「増加」28.3% (88社)、「不変」38.3% (119社)、「減少」31.5% (98社) となっています。



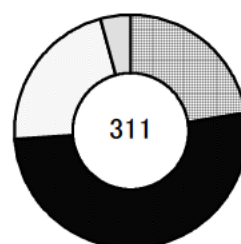
□増加	28.3%
■不変	38.3%
□減少	31.5%
□無回答	1.9%

(2) 売上高の前年同期比較については、「増加」30.2% (94社)、「不変」31.2% (97社)、「減少」34.7% (108社) となっています。



□増加	30.2%
■不変	31.2%
□減少	34.7%
□無回答	3.9%

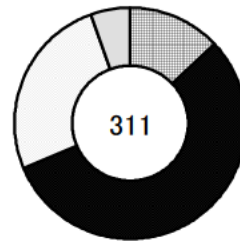
(3) 売上高の来期見込みについては、「増加」22.5% (70社)、「不変」51.4% (160社)、「減少」21.9% (68社) となっています。



□増加	22.5%
■不変	51.4%
□減少	21.9%
□無回答	4.2%

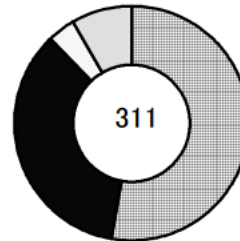
4. 価格

(1) 今期の販売価格・受注単価については、「上昇」13.2% (41社)、「不変」55.3% (172社)、「低下」26.0% (81社) となっています。



■ 上昇	13.2%
■ 不変	55.3%
□ 低下	26.0%
□ 無回答	5.5%

(2) 今期の仕入価格 (原材料・商品) については、「上昇」52.7% (164社)、「不変」35.0% (109社)、「低下」3.9% (12社) となっています。

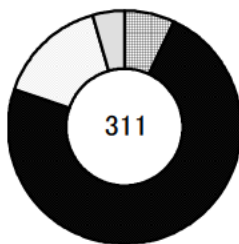


■ 上昇	52.7%
■ 不変	35.0%
□ 低下	3.9%
□ 無回答	8.4%

5. 資金繰り

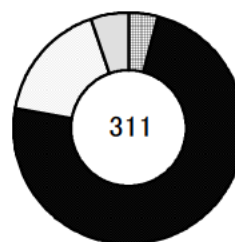
(1)・(2) 資金繰りについては、今期が73.3%、来期が73.6%の企業が「不変」としており、今期は「好転」が7.1% (22社)、「悪化」が15.1% (47社)、来期は「好転」が4.2% (13社)、「悪化」が17.0% (53社) と、今期・来期とも「悪化」が「好転」を上回っています。

今期資金繰り (前期比)



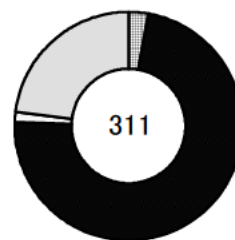
■ 好転	7.1%
■ 不変	73.3%
□ 悪化	15.1%
□ 無回答	4.5%

来期資金繰り (今期比)



■ 好転	4.2%
■ 不変	73.6%
□ 悪化	17.0%
□ 無回答	5.1%

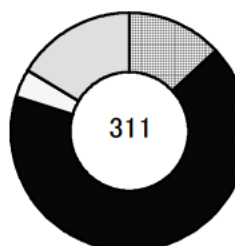
(3) 受取手形の期間は、「長期化」2.9% (9社)、「不変」72.7% (226社)、「短期化」1.3% (4社) となっています。



■ 長期化	2.9%
■ 不変	72.7%
□ 短期化	1.3%
□ 不明	23.2%

6. 製品 (商品)・原材料在庫

現在の製品在庫状況については、「過剰」13.2% (41社)、「適正」66.6% (207社)、「不足」3.9% (12社) となっています。

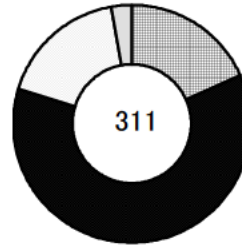


■ 過剰	13.2%
■ 適正	66.6%
□ 不足	3.9%
□ 無回答	16.4%

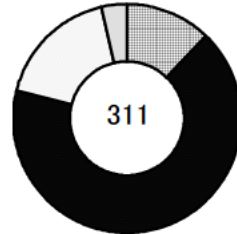
7. 設備投資意欲

〔設備投資意欲〕

(1) 前期と比べた今期の設備投資意欲については、「上昇」18.3% (57社)、「不変」61.4% (191社)、「下降」17.4% (54社) となっています。

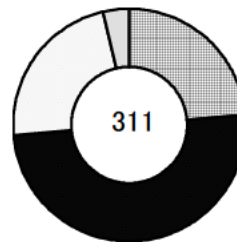


(2) 今期と比べた来期の設備投資意欲は、「上昇」12.2% (38社)、「不変」66.6% (207社)、「下降」17.7% (55社) となっています。

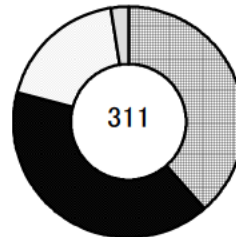


〔設備投資状況〕

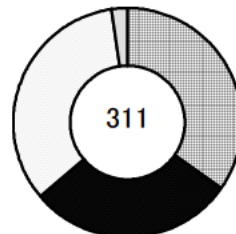
(3) 平成17年度上半期(2005年4月～2005年9月)と比べた平成18年度上半期(2006年4月～2006年9月)の設備投資計画額は、「増加」23.5% (73社)、「不変」50.2% (156社)、「減少」22.8% (71社) となっています。



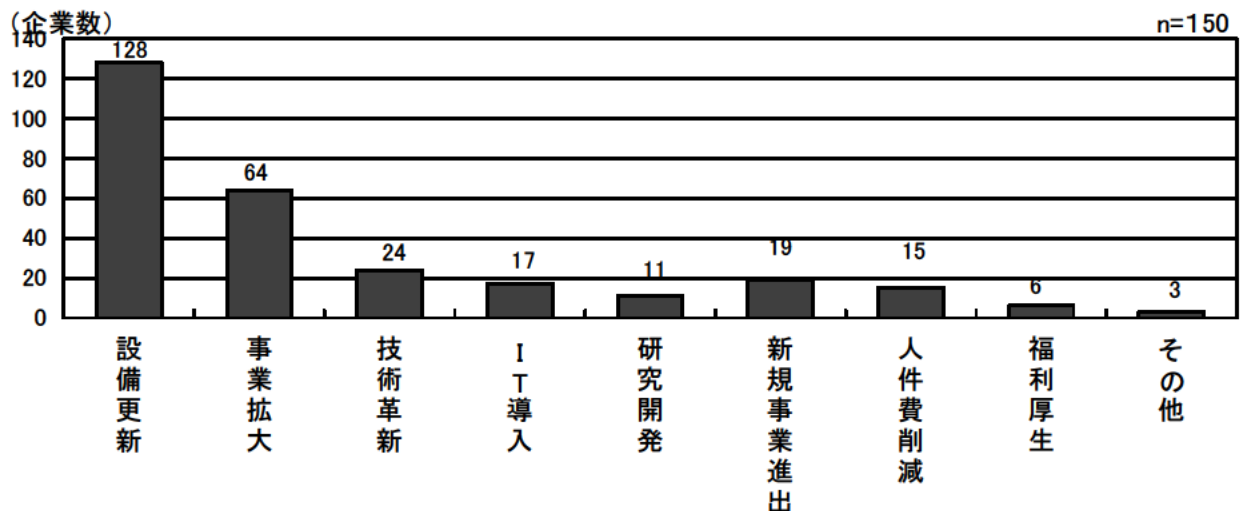
(4) 今期の設備投資予定は、「する」38.6% (120社)、「しない」40.5% (126社)、「未定」18.3% (57社) となっています。



(5) 来期の設備投資予定は、「する」34.7% (108社)、「しない」29.3% (91社)、「未定」33.8% (105社) となっています。

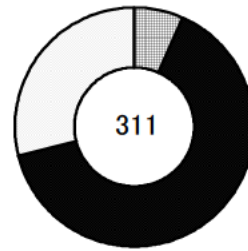


(6) 設備投資の主目的は、「設備更新」85.3% (128社)、「事業拡大」42.7% (64社)、「技術革新」16.0% (24社) の順となっています。(複数回答可)



8. 雇用状態

(1) 今期の雇用状態については、「過剰」6.8% (21社)、「適正」64.3% (200社)、「不足」28.9% (90社) となっています。

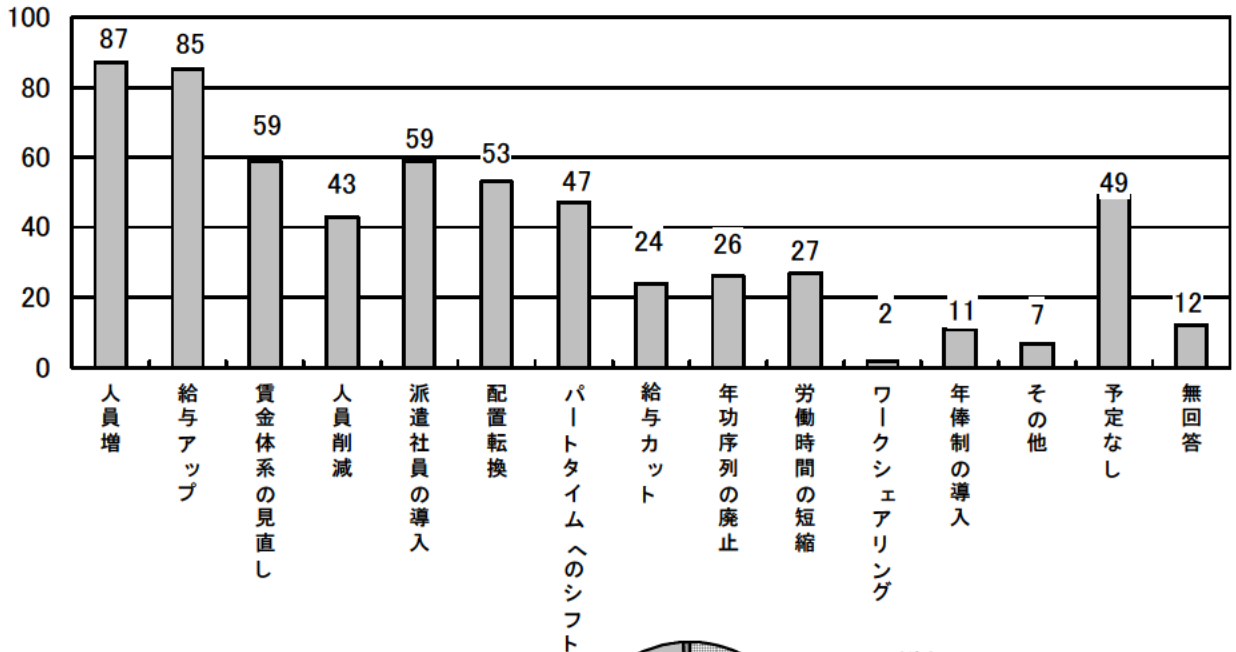


■ 過剰	6.8%
■ 適正	64.3%
□ 不足	28.9%
□ 無回答	0.0%

(2) 過去1年に行った、あるいは行う予定の雇用問題対策は、「人員増」87社(28.0%)、「給与アップ」85社(27.3%)、「賃金体系の見直し」、「派遣社員の導入」が59社(19.0%)の順となっています。(複数回答可)

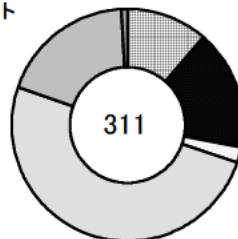
(企業数)

n=311



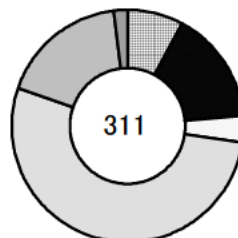
9. 平成18年度の新規学卒の採用計画

(1) 高校卒業予定者について採用予定数は、「採用なし」50.2% (156社)、「未定」18.6% (58社)、「前年並み」16.7% (52社)、「増加」11.3% (35社)の順となっています。



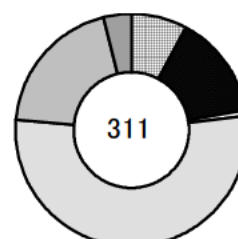
■ 増加	11.3%
■ 前年並み	16.7%
□ 減少	2.3%
□ 採用なし	50.2%
□ 未定	18.6%
□ 無回答	1.0%

(2) 大学卒業予定者(事務系)について採用予定数は、「採用なし」53.1% (165社)、「未定」17.7% (55社)、「前年並み」15.8% (49社)、「増加」7.7% (24社)の順となっています。



■ 増加	7.7%
■ 前年並み	15.8%
□ 減少	3.9%
□ 採用なし	53.1%
□ 未定	17.7%
□ 無回答	1.9%

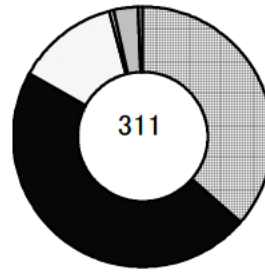
(3) 大学卒業予定者(技術系)について採用予定数は、「採用なし」53.4% (166社)、「未定」19.6% (61社)、「前年並み」14.5% (45社)、「増加」7.7% (24社)の順となっています。



■ 増加	7.7%
■ 前年並み	14.5%
□ 減少	1.0%
□ 採用なし	53.4%
□ 未定	19.6%
□ 無回答	3.9%

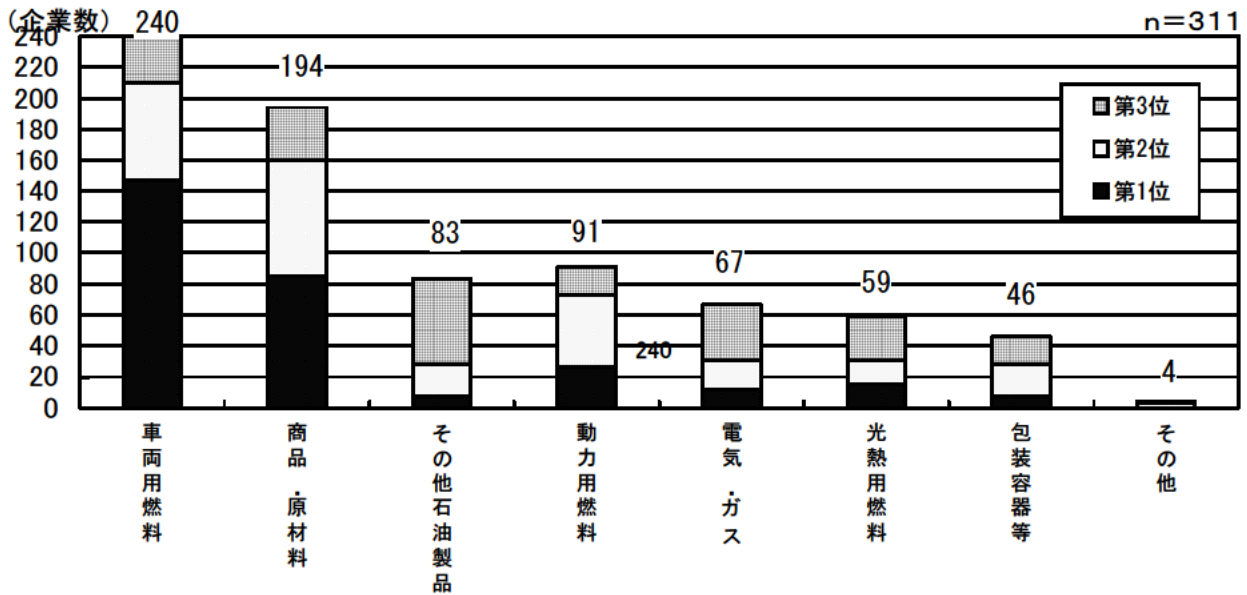
10. 原油高による影響

(1) 石油製品等の価格上昇による業績への影響は、「多少影響があった」46.6% (145社)、「大きく影響があった」36.3% (113社)、「ほとんど影響がない」12.9% (40社) となっています。

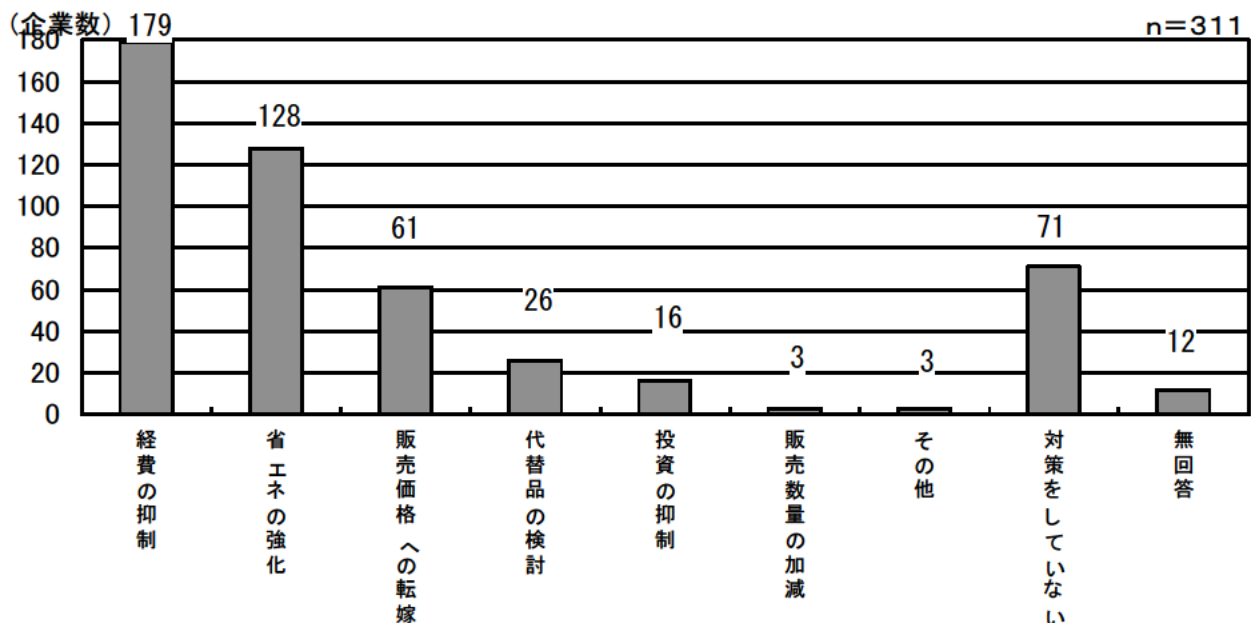


大きく影響があった	36.3%
多少影響があった	46.6%
ほとんど影響がない	12.9%
全くない	0.6%
わからない	2.9%
無回答	0.6%

(2) 石油製品等の価格上昇が業績に影響を与えた割合が高いのは、「車両用燃料の価格」240社 (77.2%)、「仕入れ商品・原材料」194社 (62.4%)、「動力用燃料」91社 (29.3%) の順となっています。(上位3項目選択)

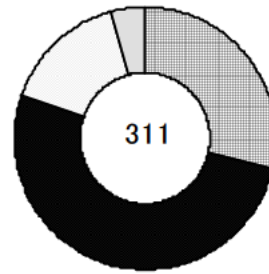


(3) 石油製品等の価格上昇に伴い行っている対策は、「経費の抑制」179社 (57.6%)、「省エネの強化」128社 (41.2%)、「対策をしていない」は71社 (22.8%) の順となっています。「販売価格への転嫁」は61社 (19.6%) に留まっています。(複数回答可)



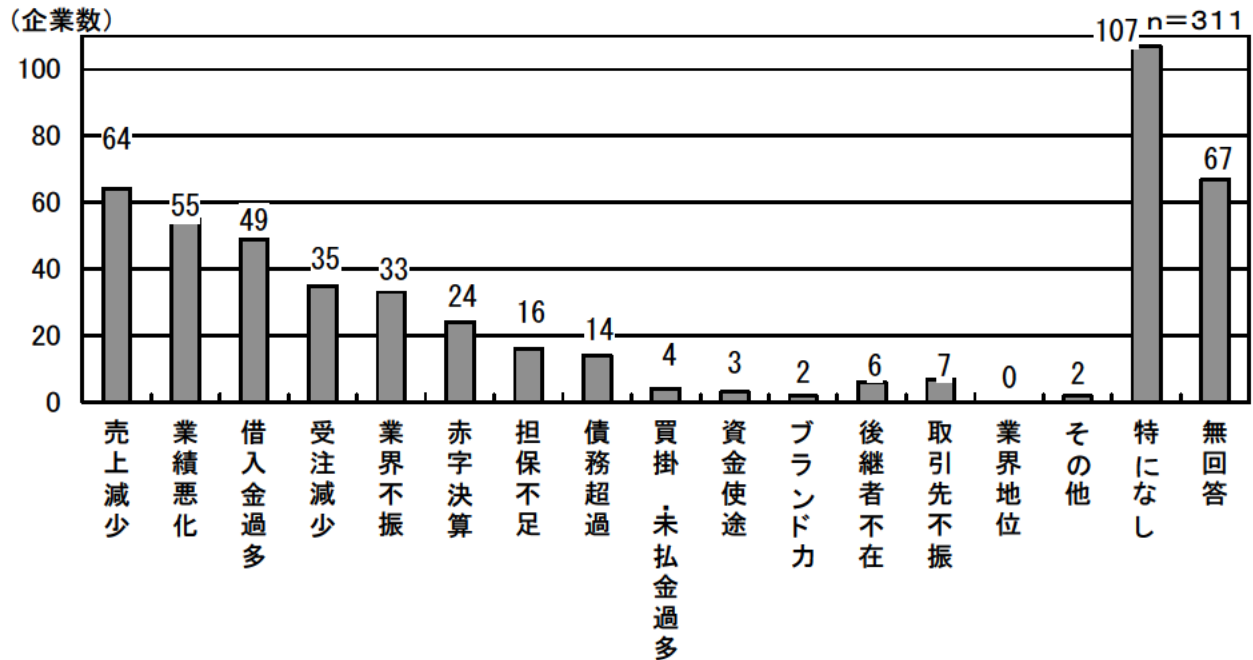
1.1. 資金調達

(1) 新規の借入を行う必要については、「ある」28.6% (89社)、「ない」51.8% (161社) となっています。

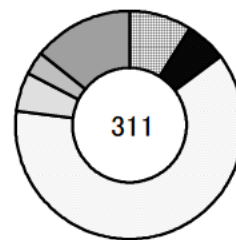


ある	28.6%
ない	51.8%
分からない	15.4%
無回答	4.2%

(2) 借入にあたっての問題については、「売上減少」64社 (20.6%)、「業績悪化」55社 (17.7%)、「借入金過多」49社 (15.8%) となっています。(複数回答可)

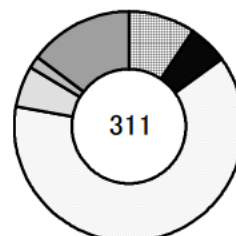


(3) 前期と比べた今期の長期資金借入れ難度は、「容易」9.0% (28社)、「やや容易」5.8% (18社)、「不変」62.1% (193社)、「やや困難」5.8% (18社)、「困難」3.2% (10社) となっています。



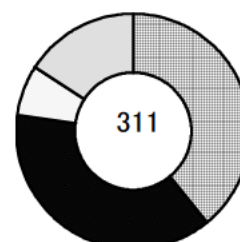
容易	9.0%
やや容易	5.8%
不変	62.1%
やや困難	5.8%
困難	3.2%
無回答	14.1%

(4) 前期と比べた今期の短期資金借入れ難度は「容易」9.3% (29社)、「やや容易」5.8% (18社)、「不変」62.7% (195社)、「やや困難」5.8% (18社)、「困難」1.6% (5社) となっています。



容易	9.3%
やや容易	5.8%
不変	62.7%
やや困難	5.8%
困難	1.6%
無回答	14.8%

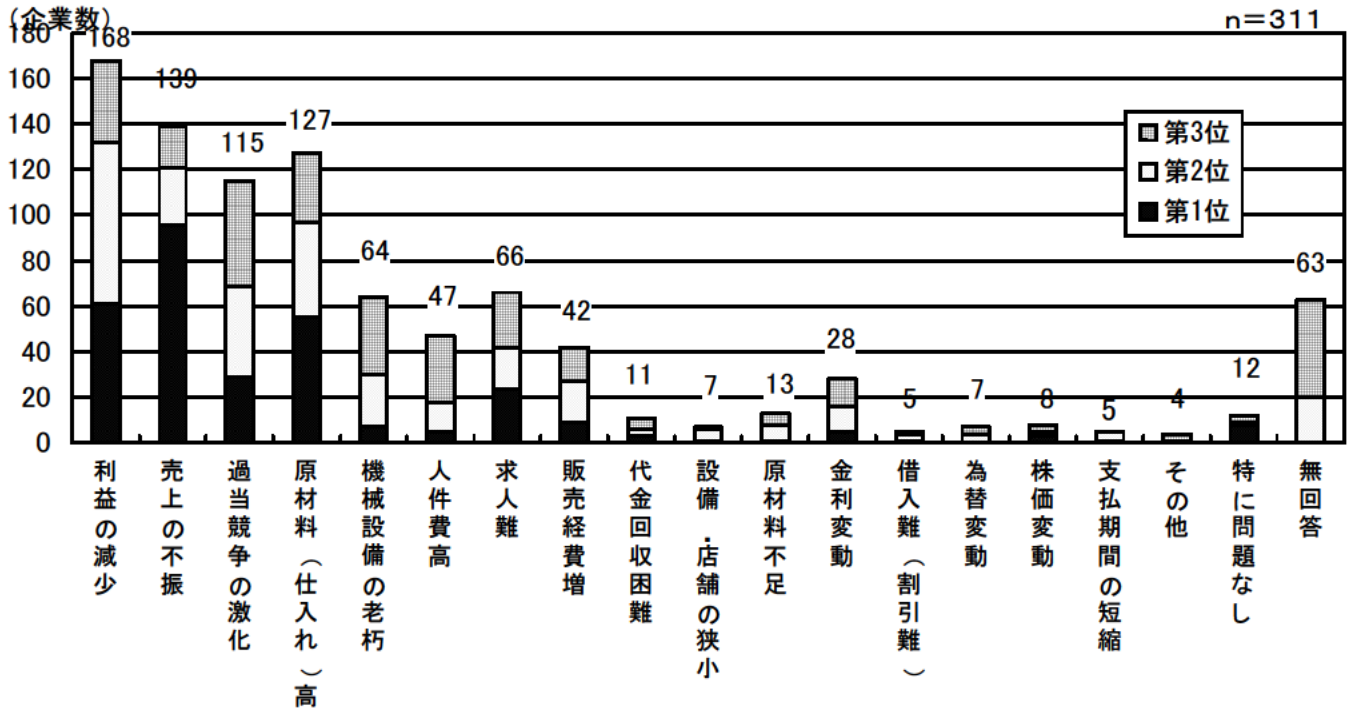
(5) 前期と比べた今期の借入れ金利は、「上昇」39.2% (122社)、「不変」37.9% (118社)、「低下」7.1% (22社) となっています。



上昇	39.2%
不変	37.9%
低下	7.1%
無回答	15.8%

1.2. 経営上の問題

- (1) 経営上の問題点としては、「利益の減少」168社(54.0%)、「売上の不振」139社(44.7%) 「原材料(仕入れ)高」127社(40.8%)の順となっています。(上位3項目選択)



- (2) 効果があると考えられる公共機関が行う企業支援策としては、「減税」186社(59.8%)、「助成制度」112社(36.0%)、「公共事業の増加」83社(26.7%)、「新設の融資制度」52社(16.7%)の順となっています。(複数回答可)

